



子孫集

四止

~ 2
1059
4止





12
1059
4

草塚集卷第九



短歌部八
雑上

天野政徳編



山嶺上雲

石豆

はみちれーこれとんれいけーあはの西うしんみねれー

夕言をれゆらかー

定保

たもーれおちちかーもるをわつあかーんみねれゆのか

名所雨

春門

竹れまのゆれーの友かーうーれさとほとーハみれと

名所山

後流

おりあそんやーあまのあまやまゆあーあまらみーあま

涼山松

夷齋

かかーれせれあをたあてたーひとわかゆーみやまへれま

草塚集九

夜

定保

耳のくま様火うらたにまきあてそれかたよ

近曉夜更長

信徳

曉れかけのたれをのちのたれをいさよとつ

三才

春登

胡蝶はれりやみこかぬらたぬのゆきはかた

園多

志徳

めままたちやひくそあてそいほよとほれら

関

宗選

そまうしんおかきぬておれれんころれれ

名所関

そ収

いつととつあゆのせれをどほくそいほれ

橋

お海良

ととせれんころあれれはのたれあれれ

橋上苔

巨巖

けたくくく人下またぬ橋れくりにし

出湯

承

やまひいゆいつれはかみれ柳極くうひか

そは仙掌

お海良

い國とよよのれりあゆたあちあつひた

漸

三希寛

わらわわわわわわわわわわわわわわわわ

閑居

建胤

いひいひいひいひいひいひいひいひい

采女水

春庭

お夕にみみみみみみみみみみみみみ

遠村煙

溪子

山風にちひくけわれまみみみみみみみ

山家集 卷之九

長英

いづれと申すは山にふまつゝうた世にたつつかたぬささきゆ

山家後年

寛光

今いともみねれすらむさうひりたれてなむるこやまへれい

山家近年

国仲

いこそせふくさるまはれはみちれてうた世をよまれみねれら

山家西夕

志け子

なれてうたはさあかねたのゆふのちをさるまをさるまのうた

山家夕

通顯

入おれかねや先にくれにやわかれやまおれ本かくれれやと

政養

そまへれをれのみねたかえりさうさうさうさうさうさうさう

山家夕

寛光

かたけまの彩端にまつたははみてあつてはくさるまのうた

深居後是非

春門

うらたのたをたをたをたをたをたをたをたをたをたをたを

山家夕

有光

れかれえりまるといれは山にみよまのうた世にたつつかたぬ

山家本

安子

みやこつとまへつとまへつとまへつとまへつとまへつとまへつ

山家本

資備

とまれのうたをうらたのうたをうらたのうたをうらたのうたを

山家後

和方

山はみれまはちをうらたのうたをうらたのうたをうらたのうたを

田家歌

石見

庭つとわかけたまはれまはれまはれまはれまはれまはれまはれ

松

有修

みやんれまはちをうらたのうたをうらたのうたをうらたのうたを

山家集

〇四

ねの友

承

うやしく世にそみれえれまろをそとまはかれせぬとらたぬ
ね緑久
子川

花はうらやみそいあはるぬとぬまらけみとやよとことらて
大平

浦松

流河

かきあまきれいそやたやあやねいひあわさたえはたらん
山柳三依
美曆

里竹

承

むかーたるはにーいよらかけりさあうちあひくさとれむたけ
長葉

たみあはあ別れさすと名れみして志けりまうなるーれの村竹

竹窓夜多

春門

あひくくハサとれこれたけあえそ月の子ゆいひれあさえ
雨申路竹
政春

竹香

定保

竹れふのつゆれひがわい今れあまもまも一たすかあそみる
竹れあはれ
美曆

花れいふ橋の香にあそそそそそそそそそそそそそそそそそ
花れあはれ
久山我

蒲萄れあま

季春

うやきーたらあぬかひれひもつたれちかかた死る人けり世に
名れーれあそそと人けり
美曆

とくはなつれとていれゆいほあいまめあはをれあやたつしん
かひとせ死世はものおれはなまひていつかあやせあつしん

中河良

あさましとくひあまをいかにせんよれあつしんあつしん
あひあつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

孝国

あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん
あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

日曉

あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん
あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

とる

あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん
あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

茂仲

あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん
あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

光敏

あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん
あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

橘述保

長収

あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん
あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

子川

あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん
あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

世隆

あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん
あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

三善

あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん
あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

子川

あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん
あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

橘述保

長収

あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん
あつしんあつしんあつしんあつしんあつしんあつしん

子川

王昭君

柔寛

菅大相国を

英雄

たかたてのれちとよきことめおたてあそきたるは神のみつた
菅原大相国を

直使を

牛久丸を

柔寛

それゆりんさわをよつまやとよきれくまの山にたるとは
牛久丸を

英雄

小智馬を

柔寛

いま心とておれひはるけくころと川をれとあはれあはれ
小智馬を

柔寛

軍人の

柔寛

うやひのりしれはとちやあそはかたりし名は世にのこ
軍人の

英雄

楠判官を

春門

いま下野その名をかきこはれ本のかきかかつるはあはれ
楠判官を

春門

相毒を

常安

よめあつたあそはえてはまは世に玉れはあはれはあはれ
相毒を

常安

紫上を

常安

おれかけれさあかきあはれはあはれはあはれはあはれ
紫上を

常安

常安

常安

新編東海道志

東寛

ひそみみみひるれつ玉つてまひめけりてゆたやぬかハ
春門

たふらふくたあくるのけちりくろくもとむるをれのみかけ

伊勢物語のいづもれいそまかー花とまもまわてさふ

ことと

春登

いろくちかちーくろれ枝ちかかたそくやまん人のちくち

新つまのねれ路よ

いかねんつひれくさそたのやーれねほさつ子れあきたあやを

源氏物語とみよとつくもそ人れよませけれハ

春登

あーれとむひゆれけくもれさハけのぬりれれひとけよか

源氏物語とみよとつくもそ人れよませけれハ

春登

あみこれいむりーとまれおたー世のりてハ何とちをまれうたー

三書又ハ後ハ

春登

まほしくみまきれさへちとくトまい出つてをれれおとかれ

天れさーなてまたわにらまなとのゆるとりあを致はてー

春門

ひちとちれいさまをみれうかいあてかした世またらまれりーま

片念え齋かまー能くれつてく者達れくせちれ

典清

ういまにれいさまーほけまにハををほけあへくかねてーらま

世根うれまよま宗れとの和にかへて中とれれ

そのれれまかかへまかとちけれけくかへけまあせ

春門

ちくひーれさふなくまをたそふなれへの子根りまきえトてち

いろ

春登

いかちれハまあまをくろくたへといつれいられ中れいあけり

飛鷹

かきつばたの妹もよかれしきまもれさしありけり
いとわづらひのさかたのさかた

應章

あかしはさきみけるにぬれにわがわがみとやあつそくか
とれ

春門

大かたの花もさしめこれさの神代はまよひやまよひ
さきり目にさしめぬれはれといはれぬか

寛光

いとさしめぬれさしめぬれさしめぬれさしめぬれ
いとさしめぬれさしめぬれ

兼光

かきつばたの妹もよかれしきまもれさしありけり
いとわづらひのさかたのさかた

寛光

光周のまはりてを磨る影と出さくわづらひのさかた
いとわづらひのさかた

寛光

そと禁け花れうさくさくさくさくさくさくさく
いとわづらひのさかた

興清

夕月共毎に共さくさくさくさくさくさくさく
いとわづらひのさかた

子川

ふわりさくさくさくさくさくさくさくさくさく
いとわづらひのさかた

興清

たつたれれれれれれれれれれれれれれれれれれ
いとわづらひのさかた

仲舒

ちたわて〜〜〜から〜〜〜
孝 神子

おのめい〜〜〜
忠

ふらち〜〜〜
四十七十一墓

人〜〜〜
信 袖子

火〜〜〜
臣 子川

身 七収

髪 寛光

けらあ〜〜〜

い〜〜〜

これ〜〜〜

お掬國筑井縣
律直う〜〜
白河少将か〜

世〜〜
〜ひけれ

とろ〜〜

〜〜
不邪淫戒 神酒良

〜〜
美女身恋〜
寛光

うつくしき花にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき
おぼしきつゝと

あはれ世にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき
未だたし

四十のまわりの花にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき
成るる

あはれ世にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき
はつひ

あはれ世にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき
も者群花欲言天

あはれ世にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき
花はつゝと

あはれ世にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき
清國宰相のつゝと

子川

養阿

石石

承

也英

去春

興清

あはれ世にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき

増上りて花はつゝと

華頂のまに案巻類語抄をたてし

あはれ世にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき
林祇

あはれ世にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき
月お林祇

笑

あはれ世にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき

秀日祝

浄録集九

〇世

一道

手長

あはれ世にわたらばつゝもあはれにうつたひつゝぬれぬれかき

言世祝

長収

たれも程たからふつたにのちやと世をまよふてはれしのちをまよふ

曹源

又と世にまよれ世をまよふてはれし一日のちをまよふつて伊世の非

厚

言後祝

かたやちの世のひかかたてやまじり日比目比たつあかみは

盈子

言多勢祝

とちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつてあかみはつて

徳風

轉擧又遊年

たかやたつちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつて

子川

言竹祝

たかやたつちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつて

竟光

加瀬良淵の祖母の半堂より言竹祝を

ちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつてあかみはつて

言考祝

重因

うらたやきまわちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつて

人れまのいひとていひてあかみはつてあかみはつて

秋光

秋ひひひまわちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつて

秋戸れまの九十三にちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつて

奥清

これとていひまわちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつて

山のちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつて

ちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつてあかみはつて

二ふ首の七半堂にねま勢のちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつて

奥清

ちをまよふてはれしつてあかみはつてあかみはつてあかみはつて

信いあつたつてあかみはつてあかみはつてあかみはつて

吾何れ物ものうひを君しめてちるる代しうたへびーる田
新田信美ら七千かまに致進子限年といふこと

典清

かくしつゝ秋の目も死にうたけーゆかひたみかやとかれ
人れ七千かまに

新美

こぞーわちうれかー死んだあふらひを死してきみうらまひん
増と典海大僧侶七千の法をうけまふ山程と

典清

しろくらのわにしろとそめいられかそめらとかけたのしあを
サケーち僧侶法をうけまふと

亮光

たみうひをうけまふとむけたりいもうつとわとつとーとつと
勢のかいれとつとわたり程をうけの志れとそせやまひて

久我

あつたれこのあつたやまみ衣にともせくむたれとーとやせん

言社説

春門

神よと山にひく法代そまゆゆと四子團圓にやーとつとつと
哀傷

徳風

いとまわあわのれとつとあまらよとやとあまの根にかつわけん
言社説

亮光

わらわらひかけたもまを死に死地ゆーとわらひにまらひまへと
父れままわらひひけり

子川

ちのれあまわらひとれしとこの秋にとつとつとつとねらわれけ
七月とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

久我

かわけつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
尾取を稽々父の母とつとつとつとつとつとつとつとつとつと

亮光

ちのわのまに... 秋... 子のひ... 糟谷春雄... 去曆

... 芳原園... 興清

... 幸子... 寛光

... 子川

... 父... 去曆

...

...

総別

あ

... 子川

... 華頂... 興清

... 大君... 大平

... 竹川... 大平

... 季... 季

...

あつたへかゝるんよ

盛章

たつたあれたかゝりぬるのちかたにのちをたまたまらわさるたけ
出相国人捧安の國へかゝるれ儲け

興清

あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ
たはまらう陸軍のちかたにのちをたまたまらわさるたけ

あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ
あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ

陸軍へかゝる人のちかたにのちをたまたまらわさるたけ

あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ
あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ

あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ
あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ

はのちかたにのちをたまたまらわさるたけ

子川

あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ

三月のちかたにのちをたまたまらわさるたけ

あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ
あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ

あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ
あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ

四月のちかたにのちをたまたまらわさるたけ

興清

あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ
あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ

久我

あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ
あつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれとゆへんあつたへかゝるれ

二五九

秋風れりてこころなほいづれつまはれやとてこころをよき
神のまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ

土屋

ついでにのまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
羈旅

茂園

まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
桂雨

季

いづれに神のまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
桂雨

子

まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
夕暮

いつに桂雨まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ

桂宿

春庭

風まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ

隆世

まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ

桂宿

子

山まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ

桂宿

日

神まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ

桂宿

承

まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ

重因

小毎まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ

岩

まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ

いとせ新降し橋やわかし

茂園

ちかみちやしの心あれみかたはとふいあかかぬ
第一はらわけとせ二條の橋あつて月を子川

羈中眺を

美庵

とせむたよとせはゆき目しんまをいしとちわわ
行客休橋

永淵

せりつとせまうらやほんしきしんまのたひん
そののくたかた

春登

しほり園のあつたはれまをいしとちわわ
よひしんまのあつた

興清

よひしんまのあつた
はる浦に

富岡

よひしんまのあつた

興清

よひしんまのあつた

子川

よひしんまのあつた

本音

よひしんまのあつた

大井川

よひしんまのあつた

春登

よひしんまのあつた

典清

よひしんまのあつた

子川

然

秋草

月夜にひびくちかき人なをりくはらうあまれいそそれぞん
糸目れりよ接持れ里をささて

興清

焼料のしりとのそりあまのよちかはらうまきけりけり
赤花のさ田のりり里をささりけり田れとすそそそそそ
つれをハミのちれれをたのみつて田にやちちちちちちね

注海

秋海良

小車れのちれとそそそそそ人いんせきとせきれあちち
金摩れかてたはる

寛光

そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
赤茶国を摩れ百とより里をささりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

興清

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

子川

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
たいしん

季彦

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
物名

ちち

茶

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
ちちちちち

茶磨

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
ちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
ちちちちち

寛光

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
ちちちちち

春雄

おのやの... 子川

七折の... 竟光

これら... 春門

ちひつ... 竟光

ゆふ... 興清

かた... 定保

ゆ... 興清

ま... 竟光

ま... 通顯

ま... 往

ま... 興清

ま... 竟光

ま... 春登

ま... 春登

とらおた... 眞名十

... 季彦

... 竟光

... 興清

... 啓行

... 折る

... 竟光

... 完早

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

下にらうせ。そのはとをたぐへていふこと。かんたぐふこと
るよこそ。さばふんみちと名づくべし。

辯類

辯ハこととわの義理を判別して物ごとをわきまをさしむるなり。致れ
判といふものにはなほ辯をわ。唐の韓愈柳子厚など此体と化れ
わ。至當不易の理をいふをひねるといふ。

三寶蔵神のこと

盛章

だいこく頼瑜信の松尾口信抄子。陸奥阿久志郡とんくをたぐふ
るはわ。内典の志やしてんくこれをわ。されど先海信のものとをうけが
ひたまたねばとわ用ざらう。神。それらのふとんはるまじく
トといはれど。ひとらむべなること。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。
か。とんをよむるまはるる。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。
にて。か。とんをよむ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。
寮式子八座をとり。神名式子大膳職子座に神三座なり。文徳實録にハ

大膳職子大八島電神齋火武主比神。まゝ庭火皇神。大炊寮子大八島電神。内
膳司の忌火神。庭大神など。この外三代實録。中右記。江家次第。百鍊抄。禁秘
御抄。増鏡のたぐい。あのみははくみえたれが。か。とん。とわ。とわ。とわ。
ついで。あ。とん。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。
が。とん。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。
は。とん。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。
と。とん。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。
わ。とん。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。
わ。とん。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。

考類

考ハか。とん。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。
た。とん。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。
璇璣玉衡以齊七政考など。か。とん。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。とわ。

古今六帖也。大和物語の序に在るされたるが考の体なり。その外に
もとと地なり。

虎柏神社のつづ

子引

神名帳より武藏国多摩郡虎柏神社なり。和名抄より同郡の柏江のや何より
よわて。さよとくちいともいひあふよこも。安房院に神を集り国府に六
所宮に神多と記げたり。一宮小野大明神。二宮小川大明神。三宮火河大明神。
四宮秩父大明神。五宮金鎖大明神。六宮指山大明神とみゆ。いつとこもいづれも
内社なるよし。小川のも式か社なり。深大寺に長弁が
私案抄より二宮小河大明神と云たり。深大寺に河。これかれとも
うがく何とて抄り入る。虎柏神社とは小河大明神と云ふなり。その
男と虎。河と柏。字體のちかきやわらやまされしものなり。男
と此国の地名より用いハ男を合しと例あり。さく男河神社の處ハ多西郡小川
郷二宮村なり。とにふりへれさまのくわ。いふくたふとげよかん何わ
けり。

序類

序ハはがまき。字より緒こといへり。緒とハ糸れくをいふ。字
より綴りて叙より俗。叙ハ事をいへり。そのくより叙
とを述べて。そのついで糸の端を引かたり。糸端をいふ。序の体
とハこれなり。まじ大序あり。小序あり。人とを述べる。序は
いとを叙たり。と正体と。議論せしを變体といふ。大井川行幸和
歌序。庚申夜奉和歌序。などハ正体。古今集の序ハ變体。散木集
賀茂保憲女集をとり大序の体あり。そのことがきハいべて小序の
体と云ふべし。

潮平和歌集序

與清

さけりさつきれ火のやまき。に雲を拂くつやとて。まづつれ
れりいさしめがわの垣たぎり。火をききれ。ゆるらぐんばいし打んが
たれば。あさま。きさゆよかん。あはれつてぬる。さほどまやで。どかど
めたり。ほらちやうとれ。とちやうわ。こころいとうけ。かか。月

日ハあはれどくちなれて。さやハつきにハわかにかわ。あおれとれせんび
 つくろりせちどーしてえおたるをわ。そのつこよ打志ぶききて井とちよ
 くれあわ。しハまゝでん。いハまきちよれをなあわわ。あせころよ
 わひやうのさゝーとさささささささささささささささささささささささ
 たまひーうたのさあやんあ。そのれは海風あれて。ま
 ちあはれさささささささささささささささささささささささささささ
 さへもさささささささささささささささささささささささささささ
 けごばようごがねハ。あよあ。斜の舞にたよはさささささささささ
 かわ。それうかたの通れさ。まをさささささささささささささささ
 だよれらびて。なををに。あよさささささささささささささささ
 け。こを井とちがさささささささささささささささささささささ
 だれハ。そのさよハ。あハさささささささささささささささささ
 けーとあおさささささささささささささささささささささささ
 多くれさささささささささささささささささささささささささ

わーたのめだよさささささささささささささささささささささ
 しごよ人にみさぶく井は。あーたんにハ。板よあわて。せよあまねくさ
 かんれちどくとまわに。いさささささささささささささささ
 かわ。それどささささささささささささささささささささ
 まさささささささささささささささささささささささささ
 ぶ。ささささささささささささささささささささささささ
 いささささささささささささささささささささささささ
 ささささささささささささささささささささささささ
 いささささささささささささささささささささささ
 えさささささささささささささささささささささ
 さわじてささささささ。これまもに。いささささささ
 おきれもささささささ。あささささささささささ
 ーがささささささささささささささささささ
 いささささささささささささささささささ

草子類
草子の策子。冊子と申す。草子と申す。草紙と申す。雙紙と申す。かへり
き便し。また抄にやとを巻と申す。またたしと申す。草子と申す。清の納
が。抄草子と申す。とてひさつり体と申す。後世に兼好が
つれづれ草子と申す。かゝる國の隨處に草子と申す。れはなほ
れはわ。

草子類

草子の策子。冊子と申す。草子と申す。草紙と申す。雙紙と申す。かへり
き便し。また抄にやとを巻と申す。またたしと申す。草子と申す。清の納
が。抄草子と申す。とてひさつり体と申す。後世に兼好が
つれづれ草子と申す。かゝる國の隨處に草子と申す。れはなほ
れはわ。

草子類

草子の策子。冊子と申す。草子と申す。草紙と申す。雙紙と申す。かへり
き便し。また抄にやとを巻と申す。またたしと申す。草子と申す。清の納
が。抄草子と申す。とてひさつり体と申す。後世に兼好が
つれづれ草子と申す。かゝる國の隨處に草子と申す。れはなほ
れはわ。

與清

人びと。いふ。草子と申す。草紙と申す。雙紙と申す。かへり
き便し。また抄にやとを巻と申す。またたしと申す。草子と申す。清の納
が。抄草子と申す。とてひさつり体と申す。後世に兼好が
つれづれ草子と申す。かゝる國の隨處に草子と申す。れはなほ
れはわ。

藏板目錄

東都

文生堂
耕文堂

擁書漫筆

松屋高田大人著

四卷

已行

相馬日記

ゆくりの考に世話をとまひつゝこれ一と書く一うらた隨筆なり
松屋高田大人著
北條時鄰大人標注
下張相馬日記とてなすれり一もり死後なり

四卷

同

棟梁集

松屋高田大人著

一卷

同

十六夜日記残月抄

同

五卷

同

賀茂真淵翁家傳

同

一卷

同

樂章類語抄

同

十二卷

同

古今に神樂催馬車風俗とて校正して注釋せり一書なり

国鎮記 同

一卷 同

積徳叢談 同

一卷 同

古今集大成

郁子園片岡大人著

廿卷 未刊

万葉長歌類林 同

十卷 同

参考撰衣 同

廿卷 同

栄花物語抄

野乃舎大石大人著

四十卷 同

大鏡觀短抄 同

十二卷 同

水鏡觀短抄 同

六卷 同

隅田河御覧見記

松屋高田大人著

一卷 写本

千種片毛海

園亭了園岡大人著

七卷 近刊

千種の系海別後 同

卅卷 未刊

洋外録

大寂菴立綱上人著

一卷 已刊

三哲小傳 同

一卷 同

契沖河國聖堂真淵大人本居宣長大人有縁とあり
それ代と云田與清大人存後を歴代人と云りてまへに
なされたり

